

公表

事業所における自己評価結果

事業所名 放課後等デイサービス子笑

公表日 2025年12月3日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		・障害特性や学習スタイル、発達段階に合わせて環境を整えスペースも確保されています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		・基準以上、配置しています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	1	・TEACCHプログラムに基づいた構造化に特に力を入れており、構造化された環境となっています。 ・視覚ツール等を活用し、情報を得やすくする情報のバリアフリー化をしています。	・洗面所やトイレの場所が狭く、段差等があるが、見守りを行ない対応している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		・毎日、清掃と消毒を実施しています。 また、個別の活動と集団での活動に合わせて安心できる環境を整えています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		・障害特性や学習スタイル、発達段階に合わせて個別のスペースに加えて、自ら活動場所を選択できる工夫をしています。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6		・毎月全利用者のケース会議を実施、進捗確認と支援の見直しを行なっています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		・毎年保護者向けアンケートを実施し、改善案を事業所で検討しています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		・毎月職員会議で合議する場が設けられています。また、職員共有ボードを活用し、改善案などがあつた場合に職員から児発管へ提案の機会を設けており業務改善につながっています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6		・本年に第三者評価を実施しています。評価を受け改善につなげています。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	6		・毎月内部研修があるほか、必要に応じて外部研修を受講する機会があります。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		・支援プログラムを公表しています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		・通所毎のアセスメント記録、月ごとの記録と全ケース会議、半年ごとの個別支援計画を作成しています。 ・行動観察等のもと、強みや弱みをアセスメントし、障害特性や発達段階に応じたサービス計画を作成しています。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		・児童及び保護者の療育の希望を伺い、作成前に担当職員と児発管で個別支援計画会議を実施し他職員の共通理解の下で作成しています。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		・個別支援計画を全職員で把握し、計画に沿った支援を行なっています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		・標準化されたアセスメントツールを活用しています。また、日々の行動観察を行い記録・分析し行動の確認をしています。	

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		・放課後等デイサービスガイドラインを踏まえた個別支援のある支援内容が支援項目ごとに記載されています。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		・毎月のチームMTGの場で合議を行ないます。また、5領域すべてでプログラム立案に関するリーダーを決め、リーダー中心にチームでプログラムを立案しています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		・自立支援プログラム、作業プログラム、運動プログラム、余暇支援プログラム、創作活動の工夫をしています。また、今年度から音楽療法を取り入れたプログラムを実施しています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		・一人ひとりの障害特性や学習スタイル、発達段階に合わせて個別活動と集団活動を適宜組み合わせ計画を作成しています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		・朝礼にて職員全員で支援内容や配置、下校時間等の送迎、欠席等を確認しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		・終礼にてヒヤリハットの有無と対策、支援の振り返りを行ない、気づいた点を共有しています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		・児童全員の記録をとり、支援の検証・改善につなげています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		・毎月のケース会議、振り返り表にて進捗状況の確認と支援の見直しを行なっています。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6		・ガイドラインの総則の基本活動を一人ひとりに合わせて複数組み合わせ支援しています。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		・児童が権利の主体となるよう、自己選択できるプログラムを作成しています。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		・児童の担当職員、児童発達支援管理責任者が参画しています。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		・医療、学校、障害福祉等の関係機関と連携をしています。 ・特別支援学校の教員と定期的な連携会議を実施しています。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		・学校、保護者とは適切に情報共有と連絡を行なっています。 ・学校ごとに情報共有の方法は違いますが、学校の教育支援計画と個別支援計画を保護者を通じて情報共有を行なっています。また、特別支援コーディネーターの先生と情報連携会議を実施しています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6		・児童発達支援事業所と情報共有を行なっています。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6		・移行支援として情報共有のカンファレンス会議等を行なっています。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6		・地域の研修会に参加しスーパーバイズを受けています。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6		・長期休み等を利用し、地域の他の児童が活動している児童館や科学館等において交流しています。また、あきる野市社会福祉協議会にて創作物展示を毎月実施し、地域参加をしています。 ・長期休みに児童館を利用しています。	

保護者への説明等	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	6	・自立支援協議会、子ども支援センター、児童発達、放デイ等の会議に積極的に参加しています。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	・連絡帳や送迎時、電話やメール等にて連携しています。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	・保護者対象の集団研修やペアレント・トレーニングは行なっていないが、個々の家族に対して、必要に応じて対応の助言を行なっています。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	・運営規定はガイドラインに則り事務所と玄関入口に掲示しています。支援内容は契約時や連絡帳、ホームページ、毎月のブログ等、利用者負担は契約時、毎月の請求書に詳細を記載しています。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を含め、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	・児童や保護者の意向を確認する機会を設けています。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6	・保護者の意向に合わせて支援内容を説明し、必ず保護者の同意を得ています。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	・相談があった際は必要に応じて家族支援や面談を行なっています。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	6	・保護者の交流の機会についてニーズを調査したが、少ないため実施しておりません。保護者会ではないが見学会の実施や、創作物の展示会を社会福祉協議会にて実施、交流できる機会を設ける等行なっております。	今後も保護者のニーズに合わせて保護者会等を検討していきます。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	・苦情窓口の設置をしています。 ※事業所内で入口に掲示しています。	
非常時	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	・ブログや利用希望表のお知らせ欄の活用、社会福祉協議会の創作物のお知らせを定期的に発信している。お子さんの活動概要や行事予定等を今後子笑便りを通じて毎月配布していきます。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	・個人情報には十分注意しています。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	・障害特性に配慮した情報伝達を行なっています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	・地域のボランティアの受け入れを積極的に行い行事や、日ごろの活動に参加していただいています。 また、地域の高齢者施設にてレクリエーションに参加する機会や社会福祉協議会にて創作物を展示し地域交流を実施しています。	
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	・マニュアルの策定、共有を職員で行ない、それに伴う研修、訓練を実施。ブログや連絡帳等を通じて保護者へ周知をしています。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	・BCPの策定、非常災害の避難訓練、保護者への情報共有を行なっています。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	・契約時に必ず、服薬やてんかん発作等の確認を行なっています。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	現在、配慮が必要な食物アレルギー対象児童はいませんが、お受けした場合は医師の指示書に基づく対応をしていきます。	

時 等 の 対 応	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		年間の安全計画を策定し、安全計画通りに毎月施設内設備点検や安全管理に必要な研修や訓練を実施しています。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		年間の安全計画を策定後、保護者へブログにて年間の安全計画を周知しています。安全計画に伴う研修や訓練を実施した際は連絡帳、ブログにて保護者と共有しています。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		終礼時にヒヤリハットを確認し、再発防止に向けた対策を検討しています。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		年2回職員の虐待防止研修を実施しています。また、虐待防止の観点から第三者の視点が重要と考え、ボランティア向けに虐待防止アンケートの実施もしております。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		組織的に決定し、必要な児童へはなぜ必要なのか、事前の対応、やむを得ない場合の対応等も必ず説明し個別支援計画に記載しています。	